

CDことコンパクトディスクの 裏面側の測定です。裏面の虹色の 光沢は記録層での光の干渉による 構造色です。

CD裏面

XPS分析

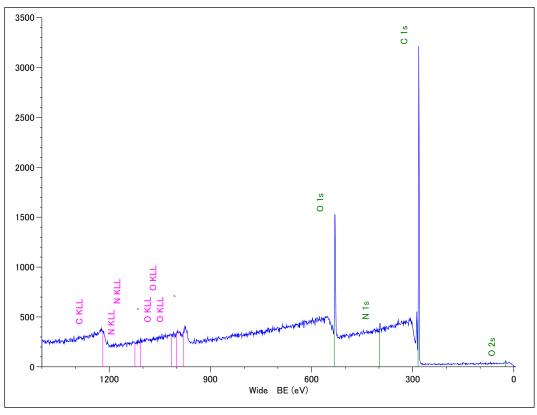
試料前処理:CDを適当なサイズに割って

カーボンテープでホルダーに貼付け

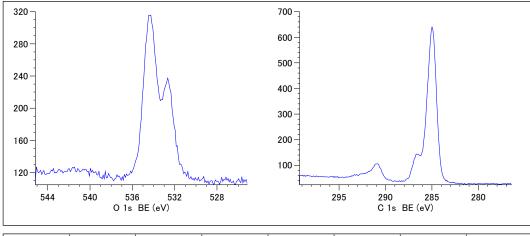
分析径: $3 \text{ mm } \phi$

X線源:monochrome X-ray(Al-K α)/12 kV/25 mA

中和条件: 2.8 eV/6.0 A

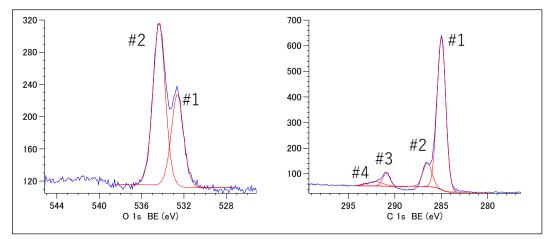


Element	Region	Start (eV)	Finish (eV)	Step (eV)	Dwell (ms)	Pass (eV)	Scans
Wide		1400.000	-5.000	1.000	100	50	2



Element	Region	Start (eV)	Finish (eV)	Step (eV)	Dwell (ms)	Pass (eV)	Scans
0	1s	545.162	525.162	0.100	100	10	20
С	1s	299.262	276.462	0.100	100	10	20

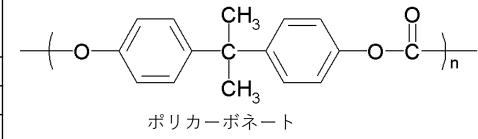
ワイドスキャンではO、N、Cが検出されました。微小量のNは除き、2元素についてナロースキャンを実施しています。



Element	Region	Start (eV)	Finish (eV)	Step (eV)	Dwell (ms)	Pass (eV)	Scans
0	1s	545.162	525.162	0.100	100	10	20
С	1s	299.262	276.462	0.100	100	10	20

Element	State	Label	Sensitivity	Intensity (cps)	Atomic %
0	1s	O 1s #1	11.9121	1713.95	5.75
0	1s	O 1s #2	11.9121	2994.89	10.04
С	1s	C 1s #1	4.2584	7000.98	65.68
С	1s	C 1s #2	4.2584	1124.18	10.55
С	1s	C 1s #3	4.2584	495.39	4.65
С	1s	C 1s #4	4.2584	355.67	3.34

	Peak position (BE, eV)
C 1s #1	285.06
C 1s #2	286.565
C 1s #3	290.96
C 1s #4	292.163
O 1s #1	532.634
O 1s #2	534.354



※チャージシフト補正あり C 1s #1:285.0eVとして

コンパクトディスク(CD)の構造は表面から順に印刷層、ラッカー層、 反射層、基盤という4層からなるようです。裏面側に当たる基盤は樹 脂であり、一般的な材質としてポリカーボネートが用いられているそ うです。ポリカーボネート自体はビスフェノールAと塩化カルボニル から生成されます。分子式から見るとベンゼン環が2つ、 プロパンの ような部位が1つ、カーボネート基(-O-(C=O)-O-)が1つです。ベン ゼンやプロパンの内、C-C由来は11個、C-O由来は2個、カーボネート が1個で、それぞれがC1s#1,2,3に該当します。特にカーボネートの文 献値では290.7eVというものがあり、合致します。またC 1s#4はベン ゼン環のShake upサテライトがが合致します。O 1sについては#1が カーボネートの2重結合側、#2に単結合の2個が合致しそうです。PET と比べるとピークポジションが高めに出ています(PETでは2重結合側 が532.0eV 単結合側が533.6eV)。文献値では大きい値で532.4eV, 534.2eVという値もあり、#1. #2と合いそうです。また大雑把にです が全体的な定量比のバランスもよさそうです。